

別記様式 2

平成 26 年度国際水産資源関係研究開発推進会議 報告書

会議責任者	国際水産資源研究所長
-------	------------

1 開催日時及び場所 日時

1) 日時 平成 26 年 11 月 20 日

10:00～12:40 (外洋資源関係)

14:00～17:40 (かつお・まぐろ類資源関係)

2) 場所 南青山会館 (東京都港区南青山 5-7-10) 新館大会議室

(議事次第: 別添 1)

2 出席者所属機関及び人数 33 機関 66 名

(出席者名簿: 別添 2)

3 結果の概要

1) 外洋資源関係

議 題	結果の概要
主催者挨拶	<p><u>国際水産資源研究所副所長</u>より、外洋資源関係における国際漁業資源管理や生物多様性条約関連等の新たな諸情勢ならびに国際水研の重点課題の概要について説明がなされるとともに、本会議の趣旨が説明された。</p> <p><u>水産総合研究センター研究推進部研究主幹</u>より、厳しい状況下での多様な外洋資源研究への対応状況および今後の連携協力に向けた本会議における意見交換の重要性が述べられた。また、水研センターの今後の名称変更・組織改編の予定が説明された。</p> <p><u>中央水産研究所所長</u>より、中央水研における外洋資源研究に関連する課題への取り組み状況および沿岸資源研究における国際情勢を踏まえた取り組み・国際水研との連携の重要性が説明された。</p>
来賓挨拶	<p><u>水産庁研究指導課研究管理官</u>より、関係機関に対して日頃の研究開発推進における連携・協力への謝意が表された後、国際水産資源を巡る多様な課題について説明が行われるとともに、諸課題解決のためには今後とも各方面に水産分野における科学研究の重要性を訴えていくこと並びに水産研究機関の連携の推進が重要である旨の説明がなされた。</p>

<p>第三期中期計画の概要と重点事項</p>	<p><u>国際水産資源研究所業務推進部長</u>より、水研センター第3期中期計画における国際水研の担当する研究開発課題等の位置づけと考え方、これらに基づく平成26年度研究課題、受託事業課題等について、配布資料に沿って説明が行われた。</p>
<p>外洋資源に関する研究開発の総括、連携・協力の現況</p>	<p><u>国際水産資源研究所外洋資源部長</u>より、同部が担当する漁業資源・国際対応の現状、研究課題及び担当事業の実施状況、今年度の研究成果、今年度以降の調査研究の方向性と計画及び連携協力の状況について説明が行われた。（これに対する補足として、<u>国際水産資源研究所副所長</u>より今年度オホーツク海調査におけるトラブルの件について関係機関に報告・お詫びが行われた）</p>
<p>研究成果情報</p>	<p><u>東北区水産研究所資源海洋部</u>、<u>中央水産研究所海洋・生態系研究センター</u>、<u>水産工学研究所漁業生産工学部</u>より、各組織における外洋資源関係の研究開発への取り組み状況、研究成果、今後の研究計画等について報告が行われた。</p> <p>1) 生息地モデルの海洋生物への応用可能性の検討と冷水性サンゴ類への適用に関する研究成果について、<u>国際水産資源研究所外洋資源部長</u>により説明がなされた。本成果の内容及び公表の可否について特段の意見は出されず、今年度成果情報として承認された。</p>
<p>総合討論「外洋資源を巡る情勢と研究ニーズ」</p>	<p>1) <u>県・水産団体等からの報告・意見・要望</u></p> <p><u>日本捕鯨協会</u>より（代読：業務推進部長）、国が主体となった南極海捕鯨調査の実施体制の実現の必要性が説明され、国際水産資源研究所の理解・協力が要請された。</p> <p><u>日本トロール底魚協会</u>より、天皇海山におけるクサカリツボダイ資源実態の解明、インド南西海域の国際資源管理への対応、NAFO水域の資源状況の把握・VME対応、およびオブザーバーの費用負担への配慮が要請された。</p> <p><u>全国いか加工業組合</u>より、組合創立50周年記念の新編世界いか類図鑑の発刊予定等について紹介された。また、イカ加工原料輸入枠の逼迫に伴う厳しい原料供給状況について説明がなされるとともに、輸入枠の上乗せが要請された。</p> <p><u>全国いか釣り漁業協会</u>より、アカイカに関するNPFC対応・資源評価・文部科学省プロジェクトにおける漁況予測・プロジェクト終了後の対応について要請された。また、台湾東方水域のトビイカ調査の経過が報告され、水研センターによる周年調査の実施を依頼された</p>

。さらに、海外情報の相互提供が要請されるとともに、推進会議の開催方法について業界からの視点で再構成し、水研センター全体で対応することが要請された。

日本鯨類研究所より、鯨類餌環境調査など鯨類を中心とする海洋生態系に関する調査研究について水研センターとの連携の重要性が指摘された。また、ミンククジラの資源量・系統群に関するオホーツク海におけるデータ収集の重要性が指摘された。これに関連してミンククジラの衛星トラッキング研究の実施状況について質問があった。また、捕獲調査レビューにおけるオキアミ調査、エコシステムモデルの重要性が指摘された。

神奈川県水産技術センターより、天皇海山と本州沿岸のキンメダイ資源に何らかのつながりが考えられることから情報提供の希望が示された。

千葉県水産総合センターより、キンメダイについて天皇海山資源と伊豆・東海嶺の資源との系群関連の有無と、あるとすればどのような関連があるのかについての解明と情報交換体制の確立等について要請された。

水産大学校より、水産総合研究センターとの統合と、天皇海山における調査実施状況が紹介され、今後の調査の継続希望が示された。

## 2) 意見交換・とりまとめ

国際水産資源研究所外洋資源部長より、(1) 国が主体となった南極海捕鯨調査の実施体制の実現の必要性については、政府・水産庁が検討すべき課題であるが、国際水研としては今後も各機関と連携して協力していくとの説明がなされた。(2) オホーツク海におけるミンククジラデータの重要性、ミンククジラの衛星トラッキング研究、オキアミ調査およびエコシステムモデルの研究状況について説明された。(3) 天皇海山におけるクサカリツボダイ資源、南インド洋に関する漁業協定(SIOFA)等の国際資源への対応状況について報告された。(4) キンメダイの系群関連については情報提供を進めていくことが示された。(5) NAFO水域の資源状況野把握・VME対応については情報収集を進めていることが報告された。

東北区水産研究所資源海洋部浮魚・いか資源グループ長より、イカ未利用資源、アカイカ資源等の調査研究対応状況について報告された。また、文部科学省プロジェクト終了後の対応、海外情報の相互提供についての現状等について説明された。推進会議の開催方法に

総括

については検討を進めることが示された。これについて水研センター本部より関係機関との協議を進め、産業界との連携を深めていく方針が示された。

国際水産資源研究所業務推進部長より、午後のまぐろ類資源関係におけるカツオ研究部会の設置の提案について説明された。

国際水産資源研究所副所長

水研センターとして鯨関係調査への取り組み方針、数理モデルの活用状況、次期中期計画に向けての対応方針、国内外の資源管理対応の整合性の重要性等について述べられ、推進会議のありかたについては産業界からの要望を水研センターとして総合的に頂く機会を充実するべく検討を進める考えであるとの総括が行われた。

2) まぐろ類資源関係

議 題	結果の概要
主催者挨拶	<p><u>国際水産資源研究所副所長</u>より、最近のまぐろ類資源を取り巻く課題、国際情勢およびまぐろ類資源研究における国際水研の体制とまぐろ類資源研究への対応状況の概要、本会議の趣旨について説明がなされるとともに、かつお資源問題へ対応のための新たなカツオ研究部会の設置についての議題が紹介された。</p> <p><u>水産総合研究センター研究推進部研究主幹</u>より、厳しい状況下でのかつお・まぐろ漁業の国際的管理に向けた水産総合センターの対応状況および今後の連携協力に向けた本会議における意見交換の重要性が述べられた。また、水研センターの今後の名称変更・組織改編の予定が説明された。</p> <p><u>中央水産研究所所長</u>より、中央水産研究所におけるまぐろ類資源研究に寄与する海洋研究への取り組み状況や関連分野の研究課題への取り組みが紹介された。</p>
来賓挨拶	<p><u>水産庁研究指導課研究管理官</u>より、関係機関に対して日頃の研究開発推進における連携・協力への謝意が表された後、かつお・まぐろ類資源の研究を巡る国際水産資源を巡る多様な課題について説明が行われるとともに、諸課題解決のためには今後とも各方面に水産分野における科学研究の重要性を訴えていくこと並びに水産研究機関の連携の推進が重要である旨の説明がなされた。</p>
第三期中期計画の概要と重点事項	<p><u>国際水産資源研究所業務推進部長</u>より、水研センター第3期中期計画における国際水研の担当する研究開発課題等の位置づけと考え方、これらに基づく平成26年度研究課題、受託事業課題等について、配布資料に沿って説明が行われた。</p>
まぐろ類資源に関する研究開発の総括、連携・協力の現況	<p><u>国際水産資源研究所かつお・まぐろ資源部長</u>より、くろまぐろ資源部及びかつお・まぐろ資源部の担当する調査研究を巡る国際情勢、組織体制、研究課題及び関係機関との連携状況、今年度の研究成果、今年度以降の調査研究の方向性と重点方針及び連携協力の状況について説明があった。</p> <p><u>中央水産研究所海洋・生態系研究センター、開発調査センター</u>より、各組織におけるまぐろ類資源関係の調査研究体制と研究課題、研究開発への取り組み状況、研究成果、今後の研究計画等について報告がなされた。</p>

<p>研究成果情報</p>	<p>1) 太平洋クロマグロの中心的な産卵期・産卵場の特定(2011-13年)、2) カツオ電子放流調査から明らかになったカツオの回遊経路に関する研究成果について、それぞれ<u>国際水産資源研究所</u> <u>くろまぐろ資源部長</u> および <u>かつお・まぐろ資源部長</u> により説明がなされた。いずれも成果の内容及び公表の可否について特段の意見は出されず、今年度成果情報として承認された。</p>
<p>総合討論「まぐろ類資源を巡る情勢と研究ニーズ」</p>	<p>1) <u>県・水産団体等からの報告・意見・要望</u></p> <p><u>宮城県水産技術総合センター</u>、<u>千葉県水産総合研究センター</u>、<u>東京都島しょ農林水産総合センター</u>、<u>神奈川県水産技術センター</u>、<u>静岡県水産技術研究所</u>、<u>三重県水産研究所</u>、<u>和歌山県水産試験場</u>、<u>高知県水産試験場</u>、<u>鳥取県水産試験場</u>、<u>宮崎県水産試験場</u>、<u>全国水産高等学校実習船運営協会</u>、<u>水産大学校</u>より、まぐろ類資源に関わる調査研究の実施状況、平成26年度調査計画等について資料等に基づき報告および説明がなされた。以上を踏まえて、各機関より以下の通り水研センターの研究開発に対する要望が出された。</p> <p><u>千葉県水産総合研究センター</u></p> <p>カツオの発生量、来遊量予測についてお願いしたい。特に、4月ごろ来遊する大型カツオについての研究に取り組んで頂きたい。</p> <p><u>東京都島しょ農林水産総合センター</u></p> <p>沿岸カツオ曳縄漁の不漁継続の原因解明とカツオ資源状態の把握及び国際的資源管理への提言をお願いしたい。具体的には情報の解析等を進めWCPFCでの資源評価への提言を実施して頂きたい。また、漁獲成績報告書の漁獲データ、標識放流結果等のデータの利用に配慮頂きたい。</p> <p><u>静岡県水産技術研究所</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁場探索に係わる海況情報、漁海況予測の要望（遠洋竿釣り漁船の要望）</li> <li>・カツオの脂肪含有量にかかわらず高品質な節を製造する技術の開発（加工業者の要望）があり、対応等を検討頂きたい。</li> </ul> <p><u>三重県水産研究所</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沿岸、近海域におけるカツオ不漁原因の解明と情報提供</li> <li>・ヨコワ加入状況の早期把握（クロマグロ資源管理、養殖計画生産に向けて）</li> <li>・無線局廃止に係わる情報提供</li> </ul>

#### 和歌山県水産試験場

カツオ不漁原因の解明に関する調査の拡充をお願いしたい。

#### 高知県水産試験場

沿岸竿釣船による薩南から高知沖で周年とれるカツオが重要となっている。今後どのようなようになるかについての検討をお願いしたい。

#### 鳥取県水産試験場

- ・調査に必要な燃油の高騰などにより国資事業の予算の確保をお願いしたい。
- ・市場関係者へのまぐろ類の調査結果の説明を実施して頂きたい。
- ・くろまぐろ全国会議で決定された日本海くろまぐろ産卵期成魚管理についての水産庁と業界の話し合いに県もオブザーバーとして参加させて頂きたい。

#### 宮崎県水産試験場

- ・カツオマグロ類漁場予測・回遊経路の解明・資源状況の把握・事業の継続、拡充・高鮮度化、高品質化への試験研究の取り組み・太平洋クロマグロ資源管理

#### 2) 意見交換・とりまとめ

##### 国際水産資源研究所くろまぐろ資源部長

今回出された意見や要望に対して次の通り回答した。

(1) クロマグロ メジ・ヨコワ標本船調査については体制が整いつつあり、今年度より水産庁を通じ早期の把握・報告を開始した。

(2) 調査研究結果の漁業者への周知については今後も積極的に実施したい。

##### 国際水産資源研究所かつお・まぐろ資源部長

今回出された意見や要望に対して次の通り回答した。

(1) 沿岸のカツオの不漁については、環境要因・来遊資源の低迷の問題があり、現状を解析しその結果を報告した。

(2) 日本沖合への来遊状況については、来遊起源の解明が進み、沿岸・近海域への来遊については資源管理の基盤を作るための作業を実施しているところである。

(3) 標識放流・生物測定結果、漁獲データ等のデータについては集約を進めており活用を図りたい。

(4) 漁場探索については開発調査センターとの協力を進めている。カツオの利用加工・高品質化に関する技術の開発等については、中央水研とも協議していく。

(5) アーカイバルタグを有効利用し、カツオ資源の詳細な解明を行いたい。

#### 水産庁漁場資源課

事業調査によって得られた情報の提供についてはカツオ漁況・クロマグロ加入量の情報を出している。諸データの扱いについては活用に向け協議を進めて行きたい。

#### 水産庁漁業調整課

くろまぐろ産卵期成魚管理についての水産庁と業界の話し合いへのオブザーバー参加希望については担当部署に伝える。太平洋クロマグロ資源管理については関係機関の協力を得て実施に向けて努力する。

### 3) 水産団体等からの報告・意見・要望

#### 全国漁業協同組合連合会

クロマグロ資源管理、漁獲規制について根拠となる科学データの推定精度の向上に勤めていただきたい。

#### 全国近海かつお・まぐろ漁業協会

調査研究の強化・拡充、用船調査の強化をお願いしたい。

#### 日本かつお・まぐろ漁業協同組合

・低位安定の熱帯まぐろ類の資源評価について今まで以上に対応をお願いしたい。

・混獲対応が業界にとって負担となっている。また、量的規制のもとにサメ類の有効利用につながるような研究を進めて頂きたい。

・海鳥の混獲規制について加重枝縄は直接漁具に改変を加えるもので漁業者の理解が進んでいない。改良または新たな措置の開発をお願いしたい。

#### 漁業情報サービスセンター



研究部会の設置	<p>今後とも各研究機関との情報交換をお願いする。</p> <p><u>国際水産資源研究所かつお・まぐろ資源部長</u> 漁業現場とともに研究・開発を実施することに理解と期待を頂き感謝している。また、漁船の用船調査についても理解協力を頂き大変助かっている。</p> <p><u>国際水産資源研究所かつお・まぐろ資源部長</u>よりカツオ不漁問題に関連して国際水産資源関係研究開発推進会議の部会として情報交換・課題の検討・立案、連携の推進を目的とし、カツオ研究部会を設置することが提案された。これに対し、課題の予算化・事業化、年間の開催日程、部会の対象魚種等について質疑応答があった後、推進会議として部会の設置が了承された。</p>
総括	<p><u>国際水産資源研究所副所長</u> お認め頂いたカツオ研究部会の設置等により、国際水産資源研究所としては沿岸・近海のかつお・まぐろ類資源の持続的利用の推進に向けて真摯に取り組んでまいりたい。特に太平洋クロマグロ、カツオ資源対策については科学的知見に基づき課題に取り組むことが重要であり、推進会議において研究ニーズや産業界からの要望をボトムアップ的に提出いただき、それらの諸課題を着実に研究課題に取り入れるための努力を今後行っていきたい。</p>

平成26年度水産総合研究センター水産業関係研究開発推進会議  
国際水産資源関係研究開発推進会議 議事次第(案)

- ・開催日時：平成26年11月20日（木）10：00～17：30
- ・開催場所：南青山会館（〒107-0062東京都港区南青山5-7-10 電話03-3406-1365）

◎第1部 外洋資源関係 10:00～12:30

テーマ・内容：外洋資源（鯨類、底魚類、外洋生態系、外洋性いか類等）及び関連分野の研究開発の現状、問題点、重要課題、実施状況と成果、ニーズと具体的な取り組み等

- |                                   |                  |        |
|-----------------------------------|------------------|--------|
| 1. 開会                             | 国際水産資源研究所 業務推進部長 | 10:00～ |
| 2. 主催者挨拶                          | 国際水産資源研究所 所長     | 10:00～ |
|                                   | 水産総合研究センター 研究推進部 | 10:05～ |
|                                   | 中央水産研究所 所長       | 10:10～ |
| 3. 来賓挨拶                           | 水産庁（増殖推進部）       | 10:15～ |
| 4. 出席者紹介                          | 業務推進部長           | 10:20～ |
| 5. 資料確認                           | 業務推進部長           | 10:25～ |
| 6. 第三期中期計画の概要と重点事項（業務推進部長）        |                  | 10:30～ |
| 7. 外洋資源に関する研究開発の総括、連携・協力の現況       |                  | 10:35～ |
| (1) 国際水産資源研究所 外洋資源部               |                  | 10:35～ |
| (2) 東北区水産研究所 資源海洋部                |                  | 10:45～ |
| (3) 中央水産研究所 海洋・生態系研究センター          |                  | 10:55～ |
| (4) 水産工学研究所 漁業生産工学部               |                  | 11:05～ |
| 8. 研究成果情報（業務推進部長・外洋資源部長等）         |                  | 11:15～ |
| 休憩                                |                  | 11:25～ |
| 9. 総合討論 「外洋資源を巡る情勢と研究ニーズ」（業務推進部長） |                  | 11:40～ |
| (1) 出席機関からの報告・要望・意見               |                  | 11:40～ |
| (2) 意見交換                          |                  | 12:00～ |
| (3) その他（研究部会の設置について）              |                  | 12:15～ |
| 10. 外洋資源関係の研究開発に関する総括（国際水産資源研究所長） |                  | 12:20～ |

◎第2部 まぐろ類資源関係 14:00～17:30

テーマ・内容：かつお・まぐろ類資源及び関連分野の研究開発の現状、問題点、重要課題、実施状況と成果、ニーズと具体的な取り組み等

- |                                     |                  |        |
|-------------------------------------|------------------|--------|
| 1. 開会                               | 国際水産資源研究所 業務推進部長 | 14:00～ |
| 2. 主催者挨拶                            | 国際水産資源研究所 所長     | 14:00～ |
|                                     | 水産総合研究センター 研究推進部 | 14:05～ |
|                                     | 中央水産研究所 所長       | 14:10～ |
| 3. 来賓挨拶                             | 水産庁（増殖推進部）       | 14:15～ |
| 4. 出席者紹介                            | 業務推進部長           | 14:20～ |
| 5. 資料確認                             | 業務推進部長           | 14:25～ |
| 6. 第三期中期計画の概要と重点事項（業務推進部長）          |                  | 14:30～ |
| 7. まぐろ類資源に関する研究開発の総括、連携・協力の現況       |                  | 14:35～ |
| (1) 国際水産資源研究所 ぐろまぐろ資源部、かつお・まぐろ資源部   |                  | 14:35～ |
| (2) 中央水産研究所 海洋・生態系研究センター            |                  | 14:55～ |
| (3) 開発調査センター                        |                  | 15:05～ |
| 8. 研究成果情報（業務推進部長・まぐろ資源二部長等）         |                  | 15:15～ |
| 休憩                                  |                  | 15:35～ |
| 9. 総合討論 「まぐろ類資源を巡る情勢と研究ニーズ」（業務推進部長） |                  | 15:50～ |
| (1) 出席機関からの報告・要望・意見                 |                  | 15:50～ |
| (2) 意見交換                            |                  | 16:30～ |
| (3) その他（研究部会の設置について）                |                  | 17:10～ |
| 10. まぐろ類資源関係の研究開発に関する総括（国際水産資源研究所長） |                  | 17:20～ |

国際水産資源関係研究開発推進会議 出席者名簿

	機関名	役職	氏名
1	宮城県水産技術総合センター	企画情報部 主任主査	遊佐 和洋
2	千葉県水産総合研究センター	資源研究室 主席研究員	内山 雅史
		資源研究室 主席研究員	石井 光廣
		資源研究室 上席研究員	小林 豊
3	東京都島しょ農林水産総合センター	振興企画室長	工藤 真弘
		八丈事業所 主任研究員	堀井 善弘
4	神奈川県水産技術センター	非常勤職員	武内 啓明
5	静岡県水産技術研究所	研究統括監	増元 英人
6	三重県水産研究所	研究管理監	山田 浩且
7	和歌山県水産試験場	資源海洋部長	武田 保幸
8	高知県水産試験場	漁業資源課長	田ノ本 明彦
9	鳥取県水産試験場	漁場開発室長	石原 幸雄
10	宮崎県水産試験場	経営流通部長	寺山 誠人
11	全国水産高等学校実習船運営協会	事務局	坂田 了
12	東京海洋大学 海洋科学部	修士2年	小川 青野
		修士2年	碓谷 稜史
13	日本鯨類研究所	調査研究部長	ルイス・パスステネ
14	漁業情報サービスセンター	事務2課長	本田 修
15	日本かつお・まぐろ漁業協同組合	顧問ドクター	魚住 雄二
16	全国近海かつお・まぐろ漁業協会	業務課長	碓 一成
17	全国漁業協同組合連合会	漁政部 専任部長役	待場 純
18	日本捕鯨協会	会長	山村 和夫
19	全国いか釣り漁業協会	会長	川口 恭一
		主査	武下 太郎
20	全国いか加工業協同組合	専務理事	野々山 浩
21	日本トロール底魚協会	業務課長	秋本 真彦
22	独立行政法人 水産大学校	助教	中村 武史
23	水産庁 資源管理部 管理課	広域資源管理推進班 係長	石川 傑
		資源管理企画班 係員	小川 太輝
24	水産庁 資源管理部 漁業調整課	指定漁業第2班 許可係長	鈴木 兵衛
		指定漁業第3班 許可第2係長	小川 一人
		かつお・まぐろ漁業企画官	竹越 攻征
25	水産庁 増殖推進部 研究指導課	研究管理官	森 賢
		企画調整係長	高橋 昌也
26	水産庁 増殖推進部 漁場資源課	国際資源班 課長補佐	西田 宏
		混獲生物資源係長	難波 浩
		資源調査調整係	井須 小羊子

国際水産資源関係研究開発推進会議 出席者名簿

27	水産総合研究センター 本部 研究推進部	研究主幹	岸田 達
		研究開発コーディネーター	高尾 芳三
		研究員	増島 雅親
28	水産総合研究センター 開発調査センター	資源管理開発調査グループ リーダー	小河 道生
		資源管理開発調査グループ 調査員	黒坂 浩平
		浮魚類開発調査グループ リーダー	伏島 一平
29	水産総合研究センター 中央水産研究所	所長	時村 宗春
		海洋・生態系研究センター 主幹研究員	森永 健司
30	水産総合研究センター 東北水産研究所	資源海洋部 浮魚・いか資源グループ長	酒井 光夫
31	水産総合研究センター 西海区水産研究所	まぐろ増養殖研究センター 成熟制御グループ長	岡 雅一
32	水産総合研究センター 水産工学研究所	漁業生産工学部長	東 照雄
33	水産総合研究センター 国際水産資源研究所	副所長	本多 仁
		業務推進部長	中野 秀樹
		業務推進部 研究開発コーディネーター	中塚 周哉
		業務推進課長	田中 勝久
		情報係長	小田 利枝
		くろまぐろ資源部長	島田 裕之
		かつお・まぐろ資源部長	小倉 未基
		外洋資源部長	宮下 富夫
		くろまぐろ資源グループ長	鈴木 伸明
		くろまぐろ生物グループ長	阿部 寧
		温帯性まぐろグループ長	伊藤 智幸
		かつお・まぐろ資源部 主幹研究員	魚崎 浩司
		混獲生物グループ長	南 浩史
		かつおグループ 主任研究員	清藤 秀理
		かつおグループ 研究員	芦田 拓士
		鯨類資源グループ長	木白 俊哉
		外洋生態系グループ長	清田 雅史
外洋生態系グループ 主任研究員	林原 毅		